

【草花の部屋】

キュウリ（ウリ科キュウリ属 *Cucumis sativus*）

和名：キュウリ（胡瓜） **別名**： **英名**：Cucumber、Gherkin

ウリ目 蔓性一年草 **原産地**：インド

花言葉：洒落 **花色**：黄



← 写真-1 キュウリの雄花

撮影日：2019年06月04日

撮影場所：大和郡山市郊外にて

撮影者：M さん

↓ 写真-2 キュウリの雌花

撮影日：2019年06月24日

撮影場所：大和郡山市郊外にて

撮影者：M さん



← 写真-3 キュウリの果実

撮影日：2019年06月16日

撮影場所：大和郡山市郊外にて

撮影者：M さん



← 写真-4 キュウリの葉

撮影日：2019年06月04日

撮影場所：大和郡山市郊外にて

撮影者：M さん

大和郡山市郊外の家庭菜園で見かけました。特別、珍しい植物ではありませんが・・・。

雌雄異花で花色は黄色、雌花は下位子房です。日本では平安時代から栽培されているそうです。温暖な気候を好み、低・高温のどちらにも弱い植物です。また、根が浅いため乾燥に弱く、高温乾燥が続くと、うどん粉病などの病気にかかりやすくなります。種まきの時期をずらしながら栽培することで秋まで収穫出来ます。

漢字表記で使われる胡瓜の「胡」という字は中国から見た西方諸民族を指し、シルクロードを渡って来たことを意味しています。「キュウリ」の呼称は、漢字で「木瓜」または「黄瓜」（きうり、現代中国語でも「黄瓜」）と書いていたことに由来するそうです。かつては熟した実も食用にしていたそうですが、甘みが薄いためにあまり好まれず、現在では未熟な実を食用にするようになったそうです。尚、現代では「木瓜」はパパイアを指します。

栽培法はツルを支柱にしっかり固定し這わせる立ち作りと、地面を這わせる地這い作りがあります。一般には立ち作りが普通ですが、地這い作りには地這い品種を選ぶと良いそうです。家庭菜園では、晩霜が降りなくなってから露地に定植するのが無難です。連作に弱く、最低でも3年を空けて植えるか、接ぎ木苗を利用するのがおすすめです。

キュウリ栽培のポイント

- ・ 生長が早く次々と実をつけるので、肥料切れをさせない。
- ・ 子蔓は摘心して、親蔓だけを伸ばす。
- ・ 梅雨時期は病気の発生原因にもなる過湿に注意して排水対策をする。
- ・ 根の張り方が浅いため、敷わらを敷くなど土の乾燥防止対策をする。
- ・ 茎葉の組織が弱いので、風などで茎が折れないように支柱などに誘引させる。

<ちょっと一言>

下位子房

ウリ科(カボチャ、ツルレイシ、スイカ)の花やキキョウ科の花では、子房は花被の付け根よりも下にあります。子房はまわりの組織に埋め込まれていて、花を上からのぞき込むと、まるで花の底からいきなり花柱が突き出しているように見えます。このような子房を下位子房(inferior ovary)と呼ばれています。